

平成 25 年度 ハッピードワン II 第 3 回運営推進会議

平成 25 年 9 月 5 日

記録 釜谷

参加者	ゆうりん II 施設長	吉田様
	介護主任	松澤様
	福祉課福祉施設係課長	阿部様
	政策推進課政策調整係	横山様
	緑町 町内会長	首藤様
	町内副会長	松木様
	おかいものバス利用者代表	佐藤様
	スタッフ	中村・石井・櫻庭・塩谷・釜谷

中村 : 皆様こんにちは。これから運営推進会議を始めたいと思います。運営推進会議とは何だろうというところで振り返ってみました。いろんな声をかけて地域の方と色々な取り組みをしているという事例があり、行政と一緒にやっていることがすごく多く私たちがどんなに頑張っても運営推進会議にしても、何を議題あげても官、民、財が一体となって、何かを行っていかないといけないと思います。平成 18 年の 4 月から地域密着になって運営推進会議をやるように国から言われているんです。メンバーもいつも一緒であり、本当に来て頂いている人には誠に申し訳ないです。町内会や町内会長さん含め、本当にご足労願って来て頂いても、さらに輪が広がっていかないのはなぜだろう。運営推進会議って国が求めているのは、警察のおまわりさんだったり、消防の消防士さんだったり、そういう人たちときさくにお話をして、地域の中で地域とどう皆さんと関わっていくか、認知症と言葉だと大きなくくりになってしまいましたが、ちょっと物忘れが始まった人が、気軽にグループホームに来てボランティアをやったり、遊びに来れたりということ意識して地域と密着していくことを作っていかねばならないという事を言っています。特養の地域密着型とちょっと違います。グループホームの地域密着は、地域の人がデイサービスに 3 人まで来れたり、遊びを使って友達ができたりとかいう所の分類があるが、そこには特養は地域にない。例えば、小規模多機能に関する通って、泊まって、暮らせるという事が一緒になってセットになっており、何かあると泊まれます。特養はどちらかというと入所であり、地域密着の方でも入所で分類が違うですね。認知症のデイサービスというのがありますが、基本的に認知症という疾患がついて、重度になって、でも家でなんとか暮らして生活していきたいという方が認知症のデイサービスを使い通う。サービスでも分類の種類の使い方がすごく複雑であり、私たちはデイサービス、小規模多機能、グループホームは認知症の砦といわれています。認知症というのは、重いイメージがあ

るので、ちょっと物忘れのある方、出てきたような方を地域にたくさんいらっしゃると思うんですね。そこで運営の議題を見つけるのが大変なんです。防災についてだったり、消防についてだったり、法律についてだったりと議題をいくらでも見つけることができるけれども、現場のスタッフが大体みつけてきて、それを2ヶ月に1回こなしていくという事は大変なことであり、そこで考えていたんですが、皆さんも新聞ご覧になったと思いますが、50代前後の女性が、仕事や介護についてだったり、50代になってくると自分の両親、祖父母を介護しなければならない、いろんな部分で女性の方たちがだんだんと大変になって来ている事が書いており、その中で、健康相談だったり、介護しているストレスから鬱になったりということが書かれています。新聞見る度にこういうことが書かれていて目にしている中で、運営推進会議のあり方を考えていくと、何かを目的にしたり、メンバー探しするのではなく、そこで町内会長の首藤さんや町内副会長の松木さんをお願いなんです、町内会と連携取りながら2ヶ月に1回物忘れカフェという新しい言葉になりますが、茶話会という感じでお買い物バスと運動しながら、2ヶ月に1回くらいで首藤さんや松木さんに協力してもらい、どこかでお茶でも飲みながら家で長く暮らしていく為にも、こんなことで困っている事、例えば「最近私物忘れしてきたんだけどそういう時どうすればいいんだろう」という一人一人の思いを町内会館を借りて、運営推進会議と題してお互いにお茶を飲みながら、雑談を通して地域の方がどんな事で困っているんだろうとか、どんな生活をしているんだろうとか自分たちが物忘れが酷くなって心配になったときに、こんなところがあるなら将来入所したいと思った時に、年金保障が入ってくる方はいいが、年金保障が入らない方は不安だと思うんです。そんな時にはどうすればいいんだろうと悩んでいる時に、こんなところもあるよ、こんな方法もあるよというような将来に向けて不安を取り除いてあげられるような話をして、難しい成年後見人制度についてありありとして難しすぎてわからない。そう言う事ではなくて、こういうところに行けば相談できるよと相談に乗ったり、私たちに相談してお手伝い出来る事があればお手伝いするということが出来たらどうなのかとっています。新聞を見て疑念して考えているんです。この先どうなるのか考えていると、いろんな行政だったり、全国の動きを見ているとすごく市町村が大きな所はある部分で審議会が始まった時点で議論が始まってきている。国で決まった時点で考えていくという事はいいと思いますが、決まった時点で動き出したら、スタッフが切られてしまう。簡単に切られることはないと思いますが、特例で半年の措置がありますが、実際には使いませんでした。使いませんでしたよと議論が始まった時点で、行政もその議論もどうなっていくんだろうかと予測してもらっていると議論にすんなり入ってこれるが、新聞を見ているとどう考えているのか心配なところです。この意を返すと介護保険の制度が始まる前の市町村の人間関係みた

いな感じですね。ヘルパーサービス使ったりデイサービスを使ったりというようなサービスで、国で決まって市町村がどのようなサービスをもっていくか、役場の職員からいうと保険不信計画に入るのか、保険不信計画をどう考えているのか、その予算をつけるために役場が一発予算をつけられることではなくて、予算をつけた中で議会に持っていき、議会では間に合わない、あつという間にサービスがどうなっていくのか期限が過ぎてしまう。期限が過ぎていく中で高齢者の方達はどんどん弱くなっていきます。要支援から要介護なってしまうたり、少ない年金の中から介護保険料引かれ、今まで使えたサービスが国のおかげで切られてしまう。あるところでは、家族会と地域が協力してボランティアとかいろんな事に取り組んでいるがサービスの質が低下すると批判を言っているが、批判を言っても国で決めたことは、完璧にやられてしまう。私達サービスを運営していく中で、2年後高齢改正ではかなり下がる、プラスアルファ格差をつけましよう国は考えています。寝たきりばかり入所しているところ、特養は3・4・5でいきましよう。1・2は省きましよう。今度は逆に寝たきりばかりいるんだから楽だろうと少し報酬単価を下げましようという風に考えています。今新幹線の工事をしていきますが、札幌までといたら、20年後。私達はどんどん年をとっていくわけだし、そんな事に税金を使って欲しくないですよ。今、生きてるうちに自分の為に使ってほしいですよ。口頭から難しい話してしまいましたが、それでうちは、ボランティアバスを3回も、4回も運行させてもらっています。やはり新聞で言われている時代が来て切り離されてしまう。

阿部様：お金をどう削るかということを考えている。自分が考えている事は、良くするためには消費税の兼ね合いを含んでいると思う。

中村：消費税3%、5%を社会保障に使えばっていう事ですよ。

阿部様：そうです。話を聞いてどうするかとなっているが、結果は決まっている。パフォーマンスですから、福祉の方で全部使われれば良いがそうでもない。すぐ影響出てくるし、売り込みに行くといいんですけどその先がなかなか。この背景には介護保険で予算としてもお金かかり過ぎてるし、削る方法はないか模索している状態。お金がないからどうするか？というところなんですがね。

中村：どうするかというところこういう事が必ず来ることがわかっていたことです。また違う介護保険制度が12年に始まった時にも、事業所のサービスも質も格差っていうもの必ず出てくる。各施設がたくさん出来上がってくるし、商売としてやってくる人達も多くなって来るので、そこのサービスの質、介護保険サービスが始まってどこが良いか悪いかわからない。利用者様にしても、ご家族様にしてもわからず、その中でいっぱいになってきたし実際にはこれだけ飽和状態に物が出てくると選べる事が、ご家族様や利用者様がおいごさんになってきたので、ここだったら安心だとか、安いとか、利用者様やご家族様は安いことにこしたことはないはな

いんですけど、結局サービスの質の良いところの考えを持たれている方が多くなってきている。ある部分では格差が出てきていて、お金のある人、ない人が出てきている。お金がない人が仕方がないとそういう施設でもやむを得ない。そういう所に入らざるを得ない。だけど何をされてても我慢をしなければならない、お金のある人は自分で選んでここが嫌だったら違うところに行けると選択する事ができるが、お金のない人は選択すらない状況であり、本当に介護保険は始まる平成12年の前の措置時代と同じで特養に入りますよ。行政がいいですよ。所得が低いから入りなさい。お金のある人は有料老人ホームであったり、はっきりと出てきている。要支援1・2の人達、お金のある人達は対応がある、お金のない人はどうなるのか？弱いものいじめですよ。根本的にそういうことを踏まえた上で、財源使いたくない、みなしたくないとなったらどうすれば、それなりの地域で活性化できるようなボランティアであったりとか、若い事業であったりとか、町内会で何かやっているんですよね？

首藤様：茶話会をやっています。

中村：茶話会をやっても目に見えないですよ。

首藤様：補助してもらっています。茶話会の補助をするということで・・・。

中村：補助すると言ってやっているうちに入らないんですよね？補助してもらっていますよって言うても、役場から予算が出てきて少ないから補助しますよっていくら出てるんですか？

松木様：年間何千円です。

中村：年間何千円ですよ。月に何百円で何ができますか？お茶買うのに120～150円ですよ。

松木様：何ができるんでないんですよ。元々はただでボランティア精神でやるってことが主だったんです。それがいくらかずつ出るようになったというのが結果であり、ボランティアをただでやると人が集まらない。役場がポイント制でやるという話が出ているが、聞いてみないとわからない。

阿部様：まだわからないです。具体的に煮詰めてどうするかという段階ですね。

中村：今それはどこで作っているの？

阿部様：それは地域福祉です。

松木様：それもどの程度のものかもわからない、町内会でやるとしたら1銭も出ないというのが現実で、担当した人が四苦八苦している。元々ボランティアという気持ちでやっているんだからそれはいいが、これを広げてやろうとした時に10年前のボランティア精神、20年前のボランティア精神でやっても人が集まらない。

中村：首藤さんや松木さんたちの時代はボランティア精神を持ってやっていたが、次々と活動していないですよ。今は社会福祉協議会があるわけですからいろんな形で4・5年前の福祉係長がボランティアを要請するものを作りましたと行っている

たんですけど、じゃあボランティアが要請されていくのかと思っていたら、実際聞いてみると、ボランティアさんが50～60人も来ていた事があっていいんです。ボランティアさんがいたにも関わらず、うまく機能するだけの待遇、元締めができていなかったから、新しいボランティアがどんどん発揮する事ができなかったんじゃないかと。ボランティアさんにグループホームやショートやディサービスの話し相手、特養の話し相手どうですか？地域でこんな茶話会するんですけどどうですか？という元締めがしっかりとしていないから、社会福祉協議会が頻繁に動いてる所が地域をしっかりまとめているんです。地域福祉で、社協の人たちが、官と民とが一緒になって一生懸命いろんな取り組みをやっているが、七飯町の社協もいろんな事やっているが形だけであって、ポイントがどうこう言うのであれば行動して欲しい。施設を建てる建てると言って5年、6年も経ってから、建ちましたって言っても誰も振り向きもしないと一緒です。下手すれば1年も、2年も経ってからしてやりますと、みんなの熱がさめてからでは誰もふりむかないのと同じです。行政を批判するわけではないが、やろうという風に声をかけるが、七飯町は潰されてしまいます。「そう言う事しなくても良いのでは？」「いいふりしているんでないか？」とか批判になってしまうんですけど、そう言う事でなく、社協さんがどうだとか、行政がどうだとかと頼らないのがそこなんです。社協や行政に頼っても始まらない、民間で出来ることをやりましょうという事で、ボランティアバスをやっているんですけども。いかがですかね？運営推進会議でいろんな議論するよりも、地域の人たちから私達が手伝える事、町内会と連携を取って一緒に行えると言う事を若い力を持っているので、取り組んでいくように、ちょっとした茶話会みたいな送り迎えをして、緑町にキャラバンがあるので、気の合う仲間を連れて来て、ちょっとお茶でも飲んで話をしながら、体調変化があれば、気づいたり、助けることも出来るのではないかなと思うんです。

首藤様：緑会って自主的にやっていましたが、解散しました。

中村：やっていましたよね？解散したんですか？

首藤様：その後に茶話会を10ヶ月、月に1回ずつやっていたんです。

佐藤様：あれは福祉会でやっていました。

首藤様：今年度に入ってどうするのか、まだ話し合っていないので今は開かれていないんですけど・・・。

中村：月1回？

首藤様：月1回でやっています。後は食事会、月1回長寿会でボランティアで縫い物、週1回簡単な食事をしながら、話をしているところもあります。ただ、認知症の方達を集めての茶話会というのはまだやった事がないです。

中村：物忘れのある方を集めてというのは？

首藤様：それはないです。

佐藤様：来てくれる人はみんなしっかりしていますね。

松木様：募集して、しっかりしている人だけ来ますね。しっかりしていない人來られても、介護の資格ないんですから。

中村：しっかりしている人はやれる訳ですから、しっかりしていない人に声をかけて集まってもらい、できれば私たちもお茶を飲みながらお手伝いさせていただきます。4丁目にお風呂がありますし、お風呂に入りながらお弁当食べたり、雑談したりして帰る。お弁当代300円でも頂いて、これただとなると来ないんですよ。うちのスタッフの食事代が300円なんです。4丁目で300円でやれるんでないかと思っています。老人クラブではないんですけど、運営推進会議が明日あるんです。そこで10月に引きこもりの人を外へ出すためにも、茶話会でもやりましょうか？と話があるんです。今月の27日、28日。27日に運営推進会議、28日に茶話会をし、物忘れのある方を集めたいという話があり、2ヶ月に1回でも来て、お昼食べて雑談をしたり、カラオケでも歌って帰ったり、4丁目はどなたが使用しても構わないので、そういう感じでやりましょう。と明日の運営推進会議で話しますが、緑町会館に来るとなれば、話だけになるのでお弁当300円で登録してするような形で、皆でお風呂入って、スタッフが介助してあげたら喜ばれ、またお風呂に入りながらお弁当食べに行くかという声が出てくるのではないかと？4丁目は温泉ではないけれど活動できるのでは？と思うんですけど、今すぐって分けではなく、一番寒い時期が外に出なくなるのでね、その時期がいいのではないかと？と思っています。暖かい時期は、自分たちで温泉に行ったりとどこでも行くことができるので、協力するので町内で考えてもらって一緒にやりながら、阿部さんに来てもらって、見てもらいながら地域の声から何か課題がないか、課題があったら会議で話し合うっていうのはどうですか？

阿部様：地域のいろんな意見、要望を聞くのは大事ですからね

中村：そういう風にしていかないとテーマを決めるっていても限界がきているし、緑町はボランティアバスで定着させていきたいので、次に入りたいんですけどよろしいですか？ボランティアバスだけでも、少人数ですが地域の繋がりがとれ、名残もとれているのではないかと思います。もう少し何が必要なのかと言うことをこのメンバーで聞くよりも茶話会を通していろんな人が参加していく中で話を聞き、引きこもりの人が引きこもりでなくサービスを使うようになったという実績を残していければと思っています。町内会さんにボランティアをやれと言われても、年齢的に無理だと思うんです。皆さんもいろんな町内会の役をやっているので、あれもこれもと言われても無理だと思いますし、全面的にバックアップどうこうするのではなくて、お弁当代としてもらい、緑町のスタッフが送迎すれば安心であり、個別に分けて何人か連れて、話し合いの提供の場を作れば、来た人が買い物バスのサービスを使う人、茶話会のサービスを使う人で、どうなるか先の

ことはやってみないとわからないが、お風呂サービスに関してはお風呂代はもらえないが、お風呂代込みのお弁当代としての名目で500円もらえばいいと思います。七飯町にあるアップル温泉は今いくらでしたっけ？

松木様：200円です。

中村：そしたら、お弁当代300円、お風呂代200円で500円でぴったりですね。案なんですけどね。

松木様：食事代と言うことで、お風呂に入るのは自由にしてお風呂代を取ったことにならないですね。

中村：ならないので、食事代といううことで500円。ご飯食べて、カラオケして帰るというような、何人かで何時間でもそれで500円ならいいのでは？ってことで1つの方法です。たくさん4丁目のお風呂は入れないのでね。

松木様：2ヶ月に1回なら少ないので、1ヶ月に1回やってほしいですね。ご飯食べて、カラオケやったり、お風呂に入れたり。

中村：お互いに話して、次は何しようか、こんなことしようかと話したりして雑談して帰る形でね。

松木様：そういう形にしてやったほうが、集まりやすいかもしれない。

中村：そういう形で、運営推進会議として切り替えて、地域の声を聞きながら2ヶ月に1回、その時間帯に阿部さんに来てもらって運営推進会議と題してやっていきたい。

松木様：ちょっと話が変わるんですが、運営推進会議って社会福祉法人の法律で決まっているのか？

中村：介護保険法で定められています。

松木様：その中で施設が中心になってやる事なのか？町内会がやる事なのか？

中村：運営推進会議は施設が中心になって行っています。

松木様：施設が中心になってやっていくけれども、どんな役職の人が来てくれとか、そういうのはあるのか？

中村：町内会か民生委員、行政、警察、消防だったり、あらゆる機関の人、利用者様のご家族、利用者様も入れていかないといけないが、利用者様が入るという事は難しくなっていて、前は軽度の利用者様を入れて運営推進会議を行っていたんです。

松木様：私たちは、はいはいと来ているが、中身がどういう事情でこういう事をやると言う内容がわからない。町内会で説明するときにはハッピーからこうやってきたからとしか説明できなかったが、町内でお弁当代500円という事で話していきます。

中村：要検討でこのような運営推進会議をやるってことは皆さんに負担がかかるので、茶話会をしながら皆さんの意見を聞いていい案が浮かぶのではないかと思っています。それでは、ボランティアバスに移りますが松木さんや首藤さんはこうやっ

て運営推進会議に出てもらっているんで、国の動きがわかるが・・・この前首藤さんに言われたんですけど、特養ができた時に説明があったんですね。こういうのができる、ああいうのができるって、首藤さんだって地域密着型特養って、何ができるんだろうってね。町内会の役員さんやられながらも思われているんです。それは地域の方もそう思いますよね。建っていても老人ホームとしてしか思っていないんです。グループホーム、ショートステイは泊まれるところ、ディサービスは昼間行ける所としか思っていないし、それくらいの認識しかしていない。そういう認識をわかりやすく説明をしていく事も、私たちの仕事だと思っています。人数にこだわらずやっていこうと思っていますし、こういう所に行ってみようという気持ちに私たちがさせなきゃいけない。私たちはいろんな話題を持っているのだから、行かなきゃ損と思わなきゃだめなんです。

松木様：民間のシステムで考えるのなら、何ぼでも考えます。

中村：来た人がこんな事やってみたいんだと言え、こういう事やってみましょう。と言えるので、それは民間の活力ですね。ボランティアバスに移る前に、ゆうりんⅡの方から2名参加されております。2人をご存知はないかと思しますので、自己紹介をお願いします。

吉田様：介護福祉施設ゆうりと緑町に3月21日からオープンした地域密着型特別養護老人ホームゆうりんⅡの兼施設長をしています、吉田と申します。よろしく申し上げます。

松澤様：地域密着型特別養護老人ホームゆうりんⅡの介護主任をしています、松澤と申します。よろしく申し上げます。

塩谷：4月からなのでわからないと思うので、ハッピードウナンⅡのディサービスとショートステイの相談員をしています、塩谷と申します。よろしく申し上げます。

中村：それでは本題に入っていきます。

石井：4年前から開始されたお買い物バスについて、今年度の取り組みをどういう風にやっていくかという前に、前年度の振り返り、どれだけの方が利用されたか、運行時間についてなど結果をお話します。利用登録に8名、全員が同じ日に利用することなく、月曜日は魚長、火曜日はラルズと決めているので、登録されている方もどっちを利用するかというのが決まっているので、キャラバン1台で運行できました。集合場所については、地図を見ながら説明します。①緑町保育園前、②緑町会館前、③金子様宅前、④に関して、前年度は利用されている方はいなかったのですが、木下様宅前ということで4ヶ所設定していました。行きに関しては、集合場所に迎えに行き、帰りに関しては自宅まで送迎していました。運行期間に関しては、1回目は夏と冬と運行したが、利用された方の意見として、冬場のほうが利用したいという意見が多く、2回目より冬場のみの運行で、12月から2月までの3ヶ月間運行してきました。一昨年の利用登録者は11名程でしたが、

登録されても利用されない方もおり、延べ利用者数37名程でした。前年は延べ利用者数45名で一昨年よりも登録数少なくても、利用者数が若干増えている結果が出てきています。実際に利用されていた方の意見や要望をお聞きしたいのですが、佐藤様お願いします。

佐藤様：要望というのはないが、本当に感謝しています。もう3年目にもなるのでね、誰々行かないかい？というよりかは、一回回覧まわしてもらおうとか、買い物に行ってほしい人、買い物に行って来てほしい人がいるんだったら、ハッピーさんで車出すので買い物登録してくださいとか、新たに事務で募集していいと思います。

中村：また今回も首藤さんに回してもらえばいいのでは。

佐藤様：回覧回してもらって、新たに行けなくなった人がいると思うんです。こういうのだったらいくって言う人がいるのでは？去年も途中から出たんですよ。

石井：去年も途中から利用したいと言ってきた方がいました。

佐藤様：中には荷物を背負って転びそうになって怖いからという方も出てきて、バスの停まる所も違ってくると思うんですね。

中村：もう一回案内文出してみたり、回覧でまわしてもらったりとね。こちらでまた回覧作るの、首藤さんお願いしていいですか？わかりずらければ直しますので。

首藤様：わかりました。

中村：なんだかんだでお買い物バス運行して3年来たわけですからね。今年の取り組みとしては集合場所だったり、集合時間だったり、運行が12月から2月までいいのかとかあるんですが、今回はうちよりも社会福祉法人なので奉仕の心を持つ法人ができましたので、フルに活用したほうがいいんでないかと思ひまして、吉田施設長と松澤主任に来ていただいて、法人さんの考え方を聞きたいと思います。

吉田様：緑町にできて、3・4ヶ月なんですけども、ハッピーさんの運営推進会議に参加させてもらって勉強中です。福祉法人が出来たばかりなんで、全体の答えがまだ見つかっていなく勉強中なんですけども、9月に第3回運営推進会議を開催しますが、うちの方ではイトーヨーカドーの販売があるんですけども、緑町の3階の地域交流スペースに呼んで地域の方たちに来てもらいたいのと勉強会という形の名目でうちの主治医のドクターや会社関係者を呼んで、ちょっとした勉強会ですね。それに対して地域の方々が送迎という形で、緑町は高齢者が多いという事なので、できないという方がいたら、スタッフが迎えに行き、長くても飽きてしまうので30分から1時間くらいですね。インフルエンザや感染症のこととか、そういうような勉強会を始めて行こうかなという考えもありましたので、送迎バスのお話を聞いて、今後も隣同士で協力していきたいと思っています。

松澤様：吉田施設長がお話してた事と私も同じなんですけど、いろいろと職員の方と、勉強会の内容についてお話していましたが、次の運営推進会議で、勉強会の内容を緑町は高齢者の方が多いので、心臓病や高血圧について簡単にわかりやすいところ

で勉強会をしたいなと思っております。

中村 : 意見のある方はいますか？

松木様 : 勉強会なんですけど、出来ることならば病院の先生もいいんですが、ビデオを30分でも見せたほうがいいんでないかなとおもうんですが。例えば今月は先生呼んで、次はビデオ見せてというように取り入れてみては？

中村 : 誠に申し訳ないんですが、先ほどの話を責めるわけでもないんですけど、お二人は前の話をお聞きになっていましたよね。ご飯食べて、カラオケなんてどうだと言っててるのに、心臓病だの、感染症だの、難しい話をしてもなかなかピンとこないし、信頼関係を作って、地域の声でこんな勉強会やりたいとか出て企画を立てていくならいいんですけど、地域の声を聞かないで、自分たちで物事をやって達成しても、私達もそうだったんですけど、この5年間は。運営推進会議を散々やってきてニーズを聞いてない中でほとんどね。その中で決行しているのが人数少ないけれども、利用率が45%と高くなってきているからボランティアバスを続けていきましょうってことになるので、もう少し前に話した事を頭に入れて発言したほうがよかったかなと思います。

首藤様 : 一般の人がどんなことで悩んでいるのかつかんでほしい。

吉田様 : 運営推進会議でこんな事をやるとかでなくて、こんなことやろうと思っているんですけどどうですか、みたいなことで、ここで意見をもらいましたので、堅かったかなと思います。

中村 : 私達は専門職なのでわかるんですけど、一般の方からすると、みんな同じに見えるんですよ。それだけ悪いんですけど、レベルが低いんです。そこを法人として緩くしないといけないのかなと思います。

松木様 : 主催する方としては几帳面でいいんですけども、食事会をやったときにいろんなデータがでてきて、一人一人の意見聞いていたらキリがないです。

中村 : 一人一人の意見を聞いて、勉強したいとか1つでも出ればいいんです。

松木様 : それは全部が反映されないってことでしょう。

中村 : 始まったばかりなんでね、それはさっくばらに考えてってことですよ。石井さんどうぞ

石井 : 去年の12月から2月とボランティアバスを運行していましたが、緑町は3月の末から4月の頭くらいまで雪が残っていて、雪解け道は雪が積もっているよりも危ないし、去年は雪は少なかったが、今年はどうかもわからないけれど、3月までやってもいいのではないかと思います。前回は登録が8名だったのでうちのキャラバン1台で間に合ったが、吉田施設長さんが言ったように法人さんとお互いに協力して取り組んだら規模も広がるのかなと思います。広まったときに、バスがあれば一回で行けるのではないかと思います。

中村 : 法人にバスがあるし、運転手もいるのでね。うまく活用してキャラバン2台より

も、19人乗りなのでいけると思うんですけど、そうなると問題が公共機関というところで、それだけの大きいバスをはたして使うのかっていうところですね。
釜谷さんどうぞ

釜谷 : 石井さんが言ったように、法人さんと協力して規模を少しでも増やしたり、冬季期間を伸ばせたらなと思います。

櫻庭 : 本町に来る際にも話してたんですけども、坂道の多い七飯町で短い距離をさせていただくということは大事だし、私も町内会員なので、もう少し声かけて、やってほしいという人がいると思うんです。回覧板自体も班長さんによって、挟んだまま回す人もいれば、一件一件で渡す人もいるんですね。班によって違うんですけども、周知されない班もあるのでないかなと思うところもあるので、余裕もって声かけていければなと思っています。

中村 : 塩谷さんどうぞ

塩谷 : 社長が言っていた茶話会、その繋がりのお買い物バス、その中でいろいろ悩みを聞ける中で、ハッピードワンIIの中には、デイもショートもグループも地域の中を散歩されています。私も利用者様連れて散歩に行きます。知った顔になって馴染み深くなると、いろんな相談とか受けてもらえると思うので、来年度と続いて行くものなので、私初めて参加させてもらいますがこれからも続けていけるようにお手伝いさせてもらいたいと思いました。

中村 : 一人でも利用したいと言う方がいるのであれば乗せていくという流れで、なおかつ今年度もスタッフの皆さんとか、法人の方だとかおっしゃった通り、続けて希望をちょっとずつでも周知かけて人を増やしていくってことは感謝されることだなと思います。うちの方としてもしっかり、運営推進会議だとか発表する場に呼んでいただいているので、持ち帰って結果として、町でも把握してお手伝いできる場所があればと思っています。そんな事が出来るんだよねってことを、そろそろ考えて下さい。お金を出してとか何をしてくれって言ってるわけでもないのね。企画係で、ボランティアバスみたいな事を募って働きかけをやって欲しい。緑町だけでなく。

佐藤様 : ラルズに行くと、緑町すごいね。お買い物バス頼んでるのって何人かに聞かれる。

中村 : それは鳴川でも協議したんですけども、なかなか鳴川がすすまないんですよ。大中山の地域も、スーパーは魚長しかない。そこで町内会長さんと茶話会を含めながら、福祉の方と協力しながら、大中山でもできるかなと思っています。大中山は自分たちで何かをやろうとしているので、違う展開ができるのではないかと考えています。緑町に首藤さんがいますから、緑町に出来て10年ですから町内会さんとはいい付き合いができています。こんな事が1回、2回と続けられてるなと感じてるわけですよ。他の事業者でもなんかやれることはないんだろうか、ボランティア考える会っていうのを作れたらいいんじゃないかなと思う

んだけど。参加してみませんかと案内を出して協力してもらい、そういうのがどんどん増えていくと最高だと思います。この前も話したと思うけど、お金を使えとは言っていないし、気さくに話せるようなものを作ってもって来てくれないって。

首藤様：チラシに何年からやって、大変喜ばれましたってようなのをつけてもらえば

中村：初めてではないので。何年かやって大変喜ばれました。って書いてあれば見て利用したいと思ってもらえるかもしれない。首藤さんに見てもらって直すところがあれば直しますね。

佐藤様：茶話会あった時に血压測定してもらえると、そういう風にすると血压測ってもらわ、とかなるんではないか？

中村：緑町に2ヶ月に1回健康診断やりますよとやったが、ダメになった。

佐藤様：結構茶話会にきてたもんね。人数的に。

中村：それは町内会とうまく連携した茶話会をやっているんですね

佐藤様：血压測ってくれるとか、何かしてくれるということはね

阿部様：健康相談みたいなことですよ

佐藤様：そうですね。

中村：健康相談って保健師がもうやってるんですよ

佐藤様：今だったらボランティアなくなったからね。全然そんなことない。

中村：健康診断やってみませんか？

阿部様：どこの会館とか決めて。

佐藤様：長寿会の方でやってるからわからないですけど、うちの方で活発なのが長寿会なんでね。茶話会とかではそういうのはないですね。

中村：その辺踏まえてバラバラよりは一発でやったほうがいいのでね。

松木様：運命共同体だからうまくやっていかなきゃならないんでよね。私たちも引退の時期にで世代交代の時期で65歳の人に渡していかないといけない時代なんです。

中村：長くやっているから意思の疎通が出来ているんですね。スタートした時は首藤さんとも、松木さんとも上手く意思の疎通がうまくいなくてね。どこでもそうなんですけども、わかってくると「あ～しよう、こうしよう」となってくるんです。あれから年齢もいきましたしね。

松木様：私たちは非営利化、お宅は営利化そういう事が違いを引き起こすんですよ。

首藤様：難しい事言われてもわからないんでね。

中村：そうですね。簡単にという事で3回目を終わらせてもらいます。ありがとうございました。